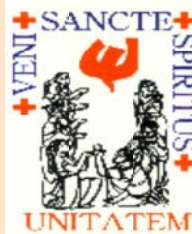


2017年1月1日 (第176号)
発行所 カトリック高松司教区 広報委員会
〒760-0074 高松市桜町1-8-9
TEL 087-831-6659 FAX 087-833-1484
Email
教区: catholic-takamatsu@takamatsu.catholic.ne.jp
広報: tk-koho@mxi.netwave.or.jp
生涯養成: yousei@takamatsu.catholic.ne.jp
WEB://www.takamatsu.catholic.ne.jp/



# カトリック高松教区報

マザー・テレサの言葉
わたしたちにとって、マリア様は喜びの源です。
わたしたちが、イエス様を贈って下さったからです。
わたしたちも、イエス様を贈ることによって、ほかの人々の喜びの源になることができます。

## あけましておめでとう！

諏訪榮治郎司教 年頭あいさつ



主の御降誕と新年おめでとございます。
「王であるキリスト」の祭日をもって「慈しみの特別聖年」の幕が閉じられました。

この閉幕ミサの中、カテドラルでは教区の各地区・ブロックから、特別聖年をどのように伝え、歩み祈ったのか、またどのような課題を見いだしたのかなどを分かち合いました。

### 人間の担うべき責任

思えば世界人口72億人のうち12億人のカトリック教徒が教皇様の呼びかけに答

## キリストの平和 告げ知らそう

### 神の知恵、神の愛からの恵み

#### 力で平和実現できぬ

教会は1月1日を「世界平和の日」とし、聖母マリアにならってキリストの平和を告げ知らせ、すべての人の平和を祈ります。これは政治の問題のみならず、神の慈しみを生きる信仰者の課題なのです。

その中で紹介された軍需産業の平和論は「すべての人が平和を望みます。軍需産業に携わる私たちは自分たちの作った武器を通して世界の「平和」を実現するであろうと期待しているのです。戦争は「力のバランス」が崩れるところから起こるからです。「力の不均衡」の状態から脱するため軍需産業の育成と活性化が平和を維持すると思えるのです」と、あります。

### 高松教区助祭 ヨセフ・ゴ・ヴァン・タイン



皆様、新年あけましておめでとうございます。この一年がみなさまにとって恵みに満ちた素晴らしい年となりますよう、お祈り申し上げます。

### 司祭叙階へ大きな決意

それは、司祭叙階の準備をしながら司祭叙階へ向けて、より大きな決意の時が始まったからです。また、小教区での司牧上必要な事柄について、より実践的な視点から幅広く学ぶこともできました。

司祭叙階の恵みを受ける前に、一年間、色々な準備をしてきました。これまで6年間の養成期間がありましたが、昨年の4月からは神学院生活の最後の年を、この助祭コースと司牧実習

### これからの福音宣教を視野にー観音寺教会を祝別ー

12月11日、観音寺教区(責任司祭・宋亨根師)で耐震工事等、改築された聖堂の祝別式が西讃地区の信者多数と隣接の聖母幼稚園の先生方が参加して諏訪司教区司教の司式のもと盛大に挙行された。1953年1月、最初のフルゴス会宣教師トマス・オンタラ神父、クレメンシオ・マンソン神父が高松に到着し、田中英吉神父(四国教区総代理)のもとで日本語を学びながら、香川県西部の状況、宣教の問題点を探る中、初期は信者の家庭でミサをたて、購入すべき土地探し等、活動拠点づくりに着手した。その後、信徒が勧め



ミサの中で祭壇に塗油を行う諏訪司教

に専念できたことは、とても大きな恵みでした。哲学科1年から神学科3年までの5年の過程は学業と研修が中心でしたが、今年も子供の頃の気持ちと同じように、希望を抱きながら、新たな一年の計画を立て準備しています。しかし今年、いつもとは違い、わたくしにとって、大きな喜びの年です。わたたくしは今、この待降節を通して、また御降誕に向けて、来年予定されている司祭叙階(2017年3月20日)への準備をふさわしく行うことができるように心がけ、祈っています。これまでのわたくしの歩みを暖かく見守っていただき、感謝申し上げます。これからも、わたたくしのためにどうぞお祈りください。

はばたき
初春のお慶びを申し上げます。今年の二月七日に高山右近の列福式が大阪城ホールで行われます。懐かしい溝部司教さまは長年の研究と深い祈りのうちに右近を尋ね求め、今回の列福にも力を尽くされていきました。今は天国で喜んでおられることでしょう。右近のことで私が特に心を惹かれるのは、「降りていく人」としての生き方です。右近は秀吉によって城主を改易され、敗北者のように降りていき、最後にはマニラで終わる六十三年の生涯のうち、半生は追放の生活でした。すべてを奪い取られ、迫害され、飢え、いのちの危険にさらされても苦難の生活を喜びをもって受け入れ、何もかも右近をキリストから引き離すことはできませんでした。それはキリストに倣い、「十字架の死に至るまで従順に生きる人」の姿でした。神は降りてきた右近を通してそのご計画を推し進めていかれたのでしよう。右近の生涯は現代の私たちに、真の幸せと、いのちの輝きを指し示してくれています。いつの時代も、苦しむ人々の救いは「降りていく人」を通して始められています。現代の教会が、そして私たち一人ひとりが右近のように降りていく人の一人にならなければなりません。そこにキリストがおられますから。今年も教区の皆様の上に主の平安がありますように。



# 修道院紹介

## 聖マリア修道女会

### 新居浜修道院

## 神さまと共に生き生きと幼児教育



神さまの光りと力を願って、ご聖体の前でひざまづいて祈る姿は最良です。神さまによつて、明るく生き生きとした幼児教育が展開されています。今もすぐ近くの保育園から、はつらつとした歌声が聞こえます。「ぼくらはみんな生きています。生きていくからつたつた...」

### 「こやかに居並ぶ新居浜修道院姉妹」

木材と採光を工夫し、竹を支柱とした祭壇など、日本的な落ち着いた聖堂で毎朝のミサを中心に、わたしたち小共同体（現在5名）の修道生活の歴史は繰り返されてきました。

わたしたちの使徒職である聖マリア幼稚園は昭和15年に、新居浜教会内にあった聖園（みそのマリア園）を譲り受け、昭和26年に敷島幼稚園、昭和35年に聖マリア幼稚園と名称変更されました。

昭和36年に現在地、繁本町に修道院と幼稚園を新築落成移転しました。周囲には新居浜の中心部というべき市役所、消防署、郵便本局、NTT、そして広々とした中央公園噴水が溢れ、歴史をもつ緑の木の繁る一宮神社の静かな境内もあります。



聖堂を訪問し祈る子どもたち

## 『典礼奉仕』のために (27)

### 典礼ひとくち解説 その4 「典礼における信徒の責務」

高松教区典礼委員長 谷口広海

日をもって承認されました。その「Reception-受容」は現在でも教会にとって大きな課題となっています。その中で、「特に教区と小教区における典礼生活の促進は聖職者だけではなく信徒の責任と考えるべき」であることを高らかに謳っています。

ここから励まされて、信徒は「典礼憲章」や「ミサの総則」といった典礼法規、規範の中で合法的に指導司祭と協働する喜びをが与えられています。そのためには司祭にも信徒にも典礼の学びが薦められていることは、いうまでもありません。

典礼やその奉仕に親しく近づき、典礼生活を日常とするよう努めることが大切です。具体的には大人も子供も香部屋係りや、侍者、聖歌、聖堂係等の典礼奉仕に親しみながら、ミサで使用される祭具類に触れ、典礼暦を

表す他の典礼祭儀と自分の直接的なつながりを身をもって体験することが大事になります。そうしながら典礼祭儀への奉仕は聖職者だけの特権ではないという意識も育つのだと思います。とはいっても、教役者や奉仕者の間には典礼に関する聖職位階の管轄権があります。各々に任された奉仕を誠実に果たすことにも目を向けましょう。

さらに、祭儀への積極的参加という意味では、「司祭と助祭および奉仕者の動作と姿勢、ならびに会衆の動作と姿勢は、祭儀全体が優美さと高貴な輪廓を呈して輝き、祭儀の個々の部分の正しく十全な意味が理解され、全員の参加が促されるよう、なされなければならない。それゆえ、個人の好みや自由裁量に対してよりも、総則とローマ典礼様式の伝統的な実践によって定められたこと、ならびに

神の民の霊的共通善に寄与することに對して注意が向けられなければならない。すべての参加者が共通の姿勢を守ることは、聖なる典礼のために集まったキリスト者共同体の成員の一致のしるしである。それは、参加者の意向と心情を表現し、はくむものだからである」としていることも忘れてはならないでしょう（総則42）

と共、フランススコサビエル祝日ミサをもって一粒集會を始め、その後昼食を採りて會議を持ちました。各地区・ブロックの報告では、教区の召命のための祈りや小教区で作った召命のための祈りを欠かさず唱えることの大切さ、厳しい家庭財政状況の中で、教区維持費や一粒会献金確保の工夫、神学生の小教区訪問交流や親睦の重要性等が出されました。

また、今後の高松教区召命促進と、3月20日予定のヨセフ助祭の司祭叙階式と高山祭壇奉仕者の助祭叙階式を教区を挙げて豊かなものにするために、以下のアイデアや意見が出ました。



熱こもる討議となった委員会

### 召命促進するために 祈りや雰囲気作り 教区一粒集會

12月3日(土)四国会館地下聖堂にて、10名の参加者

### 召命促進のために

- ★地区・ブロック・小教区の評議会で召命促進を話し合う
- ★召命の祈りを各教会に日にちを振ってリレーで行う
- ★将来の教会を担う青少年の声を耳を傾け、その考えや意見を取り入れる

### 放蕩息子デイベート白熱 大阪で司教と青年たちの集い

「司教と青年達は出合い、そしてWai.Wai」(以下、Wai.Wai)が10月29、30日の2日間の日程で兵庫県宝塚市の小林聖心女子学院内「ロザリオビル」にて開催された。

この企画は、大阪教区管区の5教区(大阪、名古屋、京都、高松、広島)の青年が一堂に会し、5教区の司教様と信仰生活や人生について語り合おうというもので、2年に1度開催され、今回は3度目の開催となった。

2日目に終わった「個人黙想」では、自然豊かな敷地内の自分の好きな場所、風の音や日光の温かさを感じながら黙想することができた。またこのプログラムの間、司教様と個人的にお話することもできた。

## 老いてもできることを精いっぱい

阿南教会 答島久子 さん (83歳)

## ひと



「神は導き守られる。要するものを準備してください」 答島久子さんの信仰の原点はご信者であり幼児洗礼を受けていることでした。

子どもたちは、まだ幼い時に神のもとに召されましたが、その生き方に勇気をもったそうです。高齢となられた今は、一人暮らしをしながら、念願であった聖書の勉強、油絵、俳句、そしてボランティア活動にも加わられています。動きが緩慢になり活動が出来なくなり、「ここにいてくれるだけいいから、続けて下さい」といわれた時は、涙が出るほど嬉しかったと、述べられています。これまでの人生、神様がいつも目を掛け守り、その都度必要なものを準備してくださりと感謝の日々です。そして今も、教会共同体のために、自分のできることを精いっぱいすることで、信仰を伝え、繋ぐことになると信じておられます。

阿南教会 天羽千賀子

### 小さな教会で七五三 伊予三島教会

伊予三島教会は四国の中でも小さな教会です。教会には、日本人のほか、フィリピン人やベトナム人が来教会に来ていて、フィリピン人のうち、3家族は四国中央市に定住しています。その他の若者たちは、四国中央市で1か月勉強した後3年間日本で仕事をするために次々と各地へ派遣されて行きます。また、ベトナムから来ている若者たちも3年間働いた後、帰国してきます。



家族として一堂に会し賛美する幸せ

私たちは、一つの家族として神様の恵みをいただくために一緒に集まります。日曜日のミサの後に勉強会をしたり、また信仰を深めるために、第1・第3木曜日は宗教的学習を聴き、お祈りをしています。そんな小さな共同体の教会にも4人の子とたちがいます。4人の子どもの父母は皆フィリピン人です。

11月13日、この日のミサには、2人の子どもが参加しました。神父さまは、お説教の時に「子どもたちに親として一番伝えたいべき宝物は、信仰の恵みです」と、おっしゃいました。ミサには、日本人・ベトナム人・フィリピン人が一緒に参加して、神様を賛美し、七五三のお祝いとしてみんなで特別なお祈りをしました。



自然の中での昼食

「Wai.Wai」はミサをもって全プログラムが終了し、閉会した。青年は就職、結婚、生き方など様々な悩みで直面する時期であるが、そんな私たち参加者は2日間を通して、司教様や他の参加者と交わり、語り、分かち合い、信仰や人生について考えることができた。この「交わり」は神様が与えてくださったためと強く感じた。最後に、この企画を実行して下さった司教様やスタッフのみならず皆さんに感謝である。

渡辺真



# 第1の真理はキリストの愛

★人はしるしを欲しがり求めるが、しるしはすでに神様から与えられているものである。

★神様はいつくしみ深く、私たちに待っていて下さる。神様の大きな愛の中に信頼してドアを開けて飛び込んでほしい。

★信者相互の協力と感謝の気持ちで以前に増して芽生え、思いやりの精神が湧いて来た。

★教会の第1の真理はキリストの愛です。キリスト者がいると

東讃ブロックでは、祈り、分かち合い、巡礼などを行い、多くの気づきがありました。

香川 東讃ブロック



閉門の祈りを捧げる諏訪司

★神様はいつくしみ深く、私たちに待っていて下さる。神様の大きな愛の中に信頼してドアを開けて飛び込んでほしい。

★信者相互の協力と感謝の気持ちで以前に増して芽生え、思いやりの精神が湧いて来た。

★教会の第1の真理はキリストの愛です。キリスト者がいると

この日は、どこでもだれもが、慈しみのオアシスを見出すことが出来ます。

★あなたがたの父がわれのみ深いように、あわれみ深い者となりなさい、裁かないでください。

★神の助けは、神ご自身が、すぐそばに居て下さることを感じることです。神と共に歩める幸せです。

★教皇フランシスコの「慈しみの特別聖年のための祈り」を繰り返してほしい。

坂町教会 長谷川聖

最近、西讃の各小教区も外国籍の信徒が増えてきました。そこで四旬節には「いつくしみの特別聖年のためのゆるしの秘跡を大切に」をテーマに、英語、ベトナム語、スペイン語、日本語によるゆるしの秘跡を行いました。

7月に徳島教会のマスター列聖記念講演参加と、阿南教会への巡礼を行いました。

その感想として、〈全宇小教区からの参加がありよかった〉・〈告解の時間があればよかった〉・〈ハスの中のロザリオの祈りはよかった〉・〈2年に1回はこのような巡礼の企画が

## 外国籍の信徒と共に喜び

坂出教会は、ベトナム人信徒が多く、シスターが歌唱指導したり、ボランティアの方が日本語を教えたりしています。

過日ベトナムの人たちが、私たち信徒への感謝を込めたベトナム・ティを設けて、

藤田美美緒

## 外国籍の信徒と共に喜び

最近、西讃の各小教区も外国籍の信徒が増えてきました。そこで四旬節には「いつくしみの特別聖年のためのゆるしの秘跡を大切に」をテーマに、英語、ベトナム語、スペイン語、日本語によるゆるしの秘跡を行いました。

7月に徳島教会のマスター列聖記念講演参加と、阿南教会への巡礼を行いました。

その感想として、〈全宇小教区からの参加がありよかった〉・〈告解の時間があればよかった〉・〈ハスの中のロザリオの祈りはよかった〉・〈2年に1回はこのような巡礼の企画が

この「いつくしみの特別聖年」を生きることで、西讃ブロックも一つにまとまる機会を得て、これから良い動きが、見られるのではないかと思います。

坂出教会 藤田美美緒

## 外国籍の信徒と共に喜び

最近、西讃の各小教区も外国籍の信徒が増えてきました。そこで四旬節には「いつくしみの特別聖年のためのゆるしの秘跡を大切に」をテーマに、英語、ベトナム語、スペイン語、日本語によるゆるしの秘跡を行いました。

7月に徳島教会のマスター列聖記念講演参加と、阿南教会への巡礼を行いました。

その感想として、〈全宇小教区からの参加がありよかった〉・〈告解の時間があればよかった〉・〈ハスの中のロザリオの祈りはよかった〉・〈2年に1回はこのような巡礼の企画が



神のつくしみにへの信頼のうちにミサを捧げる

世界中で起きている悲しい事件、争い、現象の中にあって、フランシスコ教皇がこの時期に「いつくしみの特別聖年」を制定したことの意味を深く味わう期間となりました。

私達が祈り、黙想し、巡礼の旅をする時、また、その他様々な教会行事を行う時、共に「いつく

## 聖霊通し黙想、祈り、感謝へ

「いつくしみ」は、困難な時にも優しさや思いやりを支えられて、家族と教会共同体との繋がりを深くし、それを主台として「いつくしみ」を地道に伝え、社会の平和の基盤となるよう導いてくれ

徳島教会 牛田美子

「いつくしみ」は、困難な生活の中にある人々との関わりの中で感じるもの、大自然や周りに溢れているもので、聖霊を通して、黙想、祈り、感謝へと導かれます。

徳島地区 牛田美子

「いつくしみ」をまます、自分がしっかりと感じ、味わうことから始まります。神様の尺度で物事を見、自分の力だけに頼るのではなく、神様に委ね、そして「いつくしみ」に素直に立ち帰ることを通して、私が周りの人々に対して神様の「いつくしみ」そのものに変えられていくのです。

徳島教会 牛田美子

「いつくしみ」は、困難な生活の中にある人々との関わりの中で感じるもの、大自然や周りに溢れているもので、聖霊を通して、黙想、祈り、感謝へと導かれます。

徳島地区 牛田美子

この祈りは、今治教会に限らず、東讃ブロックの他の3教会（西条教会、新居

今治教会 西津裕次

「いつくしみ」は、困難な生活の中にある人々との関わりの中で感じるもの、大自然や周りに溢れているもので、聖霊を通して、黙想、祈り、感謝へと導かれます。

徳島地区 牛田美子

この祈りは、今治教会に限らず、東讃ブロックの他の3教会（西条教会、新居

今治教会 西津裕次

「いつくしみ」は、困難な生活の中にある人々との関わりの中で感じるもの、大自然や周りに溢れているもので、聖霊を通して、黙想、祈り、感謝へと導かれます。

徳島地区 牛田美子

今治教会 西津裕次

徳島教会 牛田美子

# 助けて下さる神と共に歩む幸せ

「いつくしみの特別聖年」が終わった。パチカンでは11月20日、教皇フランシスコによる閉幕の祭儀が行われた。教皇は「私たちがいつくしみを受けたのは、いつくしみ深くなるためです」と強調した。高松教区でも11月13日(日) 坂町司教座聖堂で諏訪治郎司教による閉幕ミサを執り行い、聖なる罪が閉じられた。同日、高松教区の各地区・ブロック信徒による、特別聖年のこの1年をどう歩んだか、振り返り発表があった。その内容を紹介する。

宇和島教会では、教会を神の優しさと温かさ、いつくしみという母心が信徒にとっても教会以外の人々にとっても、具体的に目に見える場となるよう黙想し実践してきました。

③教会の内なる真実へ

宇和島教会の信徒名簿には、もう長い間教会を離れて音信不通、所在不明の信徒が約100名います。ご高齢の方が多く、今宇和島教会に在籍している信徒も知らない方は多いです。だから、私たちは「自分たちとは全く異なる周縁での生活を送るすべての人に心を開く」ということをこれらの外国人から学ぶこと

「いつくしみ」は、困難な生活の中にある人々との関わりの中で感じるもの、大自然や周りに溢れているもので、聖霊を通して、黙想、祈り、感謝へと導かれます。

徳島地区 牛田美子

「いつくしみ」は、困難な生活の中にある人々との関わりの中で感じるもの、大自然や周りに溢れているもので、聖霊を通して、黙想、祈り、感謝へと導かれます。

徳島地区 牛田美子

「いつくしみ」は、困難な生活の中にある人々との関わりの中で感じるもの、大自然や周りに溢れているもので、聖霊を通して、黙想、祈り、感謝へと導かれます。

徳島地区 牛田美子

「いつくしみ」は、困難な生活の中にある人々との関わりの中で感じるもの、大自然や周りに溢れているもので、聖霊を通して、黙想、祈り、感謝へと導かれます。

徳島地区 牛田美子

「いつくしみ」は、困難な生活の中にある人々との関わりの中で感じるもの、大自然や周りに溢れているもので、聖霊を通して、黙想、祈り、感謝へと導かれます。

徳島地区 牛田美子

徳島教会 牛田美子

# 愛し合い赦し合い生きる

許せない人もいるが、神様は何と言っておられるのかを考えると、愛し合い、許し合う、いつくしみが分かるようになります。

★この「いつくしみの特別聖年」が、自分たちにとっても貴重な人生のひとつになったと感じている人が多かったようです。

中島町教会 曾隆博

「いつくしみ」は、困難な生活の中にある人々との関わりの中で感じるもの、大自然や周りに溢れているもので、聖霊を通して、黙想、祈り、感謝へと導かれます。

徳島地区 牛田美子

「いつくしみ」は、困難な生活の中にある人々との関わりの中で感じるもの、大自然や周りに溢れているもので、聖霊を通して、黙想、祈り、感謝へと導かれます。

徳島地区 牛田美子

「いつくしみ」は、困難な生活の中にある人々との関わりの中で感じるもの、大自然や周りに溢れているもので、聖霊を通して、黙想、祈り、感謝へと導かれます。

徳島地区 牛田美子

「いつくしみ」は、困難な生活の中にある人々との関わりの中で感じるもの、大自然や周りに溢れているもので、聖霊を通して、黙想、祈り、感謝へと導かれます。

徳島地区 牛田美子

「いつくしみ」は、困難な生活の中にある人々との関わりの中で感じるもの、大自然や周りに溢れているもので、聖霊を通して、黙想、祈り、感謝へと導かれます。

徳島地区 牛田美子

「いつくしみ」は、困難な生活の中にある人々との関わりの中で感じるもの、大自然や周りに溢れているもので、聖霊を通して、黙想、祈り、感謝へと導かれます。

徳島地区 牛田美子

徳島教会 牛田美子

高知地区(安芸・赤岡・中村・江の口・中島町)5つの教会は合同で「いつくしみの特別聖年」を振り返り分かち合いを行いました。

★この「いつくしみの特別聖年」に、深く人生を振り返ることができました。

神のいつくしみ、愛、恵み、許しの中に自分があると感じました。

神は人を通していつくしみを現わされ、神からも人からも、いつも許されている自分がいることを感じることもできました。

これからは出会いを大切に、神の恵みに感謝しながら、神の思いに感謝しながら生きていきたいです。

★今まで神からいただいた

「いつくしみの特別聖年」が終わった。パチカンでは11月20日、教皇フランシスコによる閉幕の祭儀が行われた。教皇は「私たちがいつくしみを受けたのは、いつくしみ深くなるためです」と強調した。高松教区でも11月13日(日) 坂町司教座聖堂で諏訪治郎司教による閉幕ミサを執り行い、聖なる罪が閉じられた。同日、高松教区の各地区・ブロック信徒による、特別聖年のこの1年をどう歩んだか、振り返り発表があった。その内容を紹介する。

「いつくしみの特別聖年」が終わった。パチカンでは11月20日、教皇フランシスコによる閉幕の祭儀が行われた。教皇は「私たちがいつくしみを受けたのは、いつくしみ深くなるためです」と強調した。高松教区でも11月13日(日) 坂町司教座聖堂で諏訪治郎司教による閉幕ミサを執り行い、聖なる罪が閉じられた。同日、高松教区の各地区・ブロック信徒による、特別聖年のこの1年をどう歩んだか、振り返り発表があった。その内容を紹介する。

「いつくしみの特別聖年」が終わった。パチカンでは11月20日、教皇フランシスコによる閉幕の祭儀が行われた。教皇は「私たちがいつくしみを受けたのは、いつくしみ深くなるためです」と強調した。高松教区でも11月13日(日) 坂町司教座聖堂で諏訪治郎司教による閉幕ミサを執り行い、聖なる罪が閉じられた。同日、高松教区の各地区・ブロック信徒による、特別聖年のこの1年をどう歩んだか、振り返り発表があった。その内容を紹介する。

「いつくしみの特別聖年」が終わった。パチカンでは11月20日、教皇フランシスコによる閉幕の祭儀が行われた。教皇は「私たちがいつくしみを受けたのは、いつくしみ深くなるためです」と強調した。高松教区でも11月13日(日) 坂町司教座聖堂で諏訪治郎司教による閉幕ミサを執り行い、聖なる罪が閉じられた。同日、高松教区の各地区・ブロック信徒による、特別聖年のこの1年をどう歩んだか、振り返り発表があった。その内容を紹介する。

「いつくしみの特別聖年」が終わった。パチカンでは11月20日、教皇フランシスコによる閉幕の祭儀が行われた。教皇は「私たちがいつくしみを受けたのは、いつくしみ深くなるためです」と強調した。高松教区でも11月13日(日) 坂町司教座聖堂で諏訪治郎司教による閉幕ミサを執り行い、聖なる罪が閉じられた。同日、高松教区の各地区・ブロック信徒による、特別聖年のこの1年をどう歩んだか、振り返り発表があった。その内容を紹介する。

「いつくしみの特別聖年」が終わった。パチカンでは11月20日、教皇フランシスコによる閉幕の祭儀が行われた。教皇は「私たちがいつくしみを受けたのは、いつくしみ深くなるためです」と強調した。高松教区でも11月13日(日) 坂町司教座聖堂で諏訪治郎司教による閉幕ミサを執り行い、聖なる罪が閉じられた。同日、高松教区の各地区・ブロック信徒による、特別聖年のこの1年をどう歩んだか、振り返り発表があった。その内容を紹介する。

「いつくしみの特別聖年」が終わった。パチカンでは11月20日、教皇フランシスコによる閉幕の祭儀が行われた。教皇は「私たちがいつくしみを受けたのは、いつくしみ深くなるためです」と強調した。高松教区でも11月13日(日) 坂町司教座聖堂で諏訪治郎司教による閉幕ミサを執り行い、聖なる罪が閉じられた。同日、高松教区の各地区・ブロック信徒による、特別聖年のこの1年をどう歩んだか、振り返り発表があった。その内容を紹介する。

徳島教会 牛田美子



教区スケジュール

Table with 2 columns: Date and Event. Includes dates from 1月1日 to 2月28日 with various religious events like '神の母マリア祭' and '年間第2主日'.

TSC便り

寄り添い活動へ移行

大阪教区管区 仙台教区支務担当委員 11月30日(水)大阪梅田のサクラ・ファミリア教会に於いて、大阪教区管区仙台支務担当委員が開かれた。

米川ベースについては、教区報前号(175号)で、大阪教区管区の新たな決断として、現在支援を行っている大船渡市(陸前高田市)に加えて、米川ベースを置いている宮城県南三陸町の復興支援にも携わって行くことを決定したとの報告を掲載しています。

担当委員の報告では、まず、災害直後の状況からある程度、日常に戻ってきている中で、支援の在り方

日本の教会は少な〜とも被災後の10年間を見据えた支援の在り方を基本に据えている。また会計報告の中で、他の教区管区への支援経費は全額をカタスジャパンからの経費に負っているが、大阪教区管区は人件費だけは同様としても、他のすべての支援経費は管区内小教区からの寄付金で賄っていること、これからは米川ベースの経費が加わることが視野に運営することなどが報告された。

霊性センターを宣教拠点に

12月3日、フランススコ・ザベリオの祝日に、三本松教会が「霊性センター」の再出発を記念してミサが捧げられ、高松教区にとつて意味のある日となりました。



再出発記念ミサを捧げる

教区は2009年に閉校したRM国際神学校の施設を「霊性センター」とし、その活用を模索してまいりました。2016年12月現在、長期間の準備をもって「霊性センター」敷地内C棟を三本松小教区教会とし、「宣教活動拠点」としました。

キリスト教諸教会では、1月18日から25日を「キリスト教一致祈禱週間」と定めています。それは「キリスト教一致祈禱週間」であるエキュメニズムの活動として今全国各地で広く行われています。

人びとの」という意味です。三本松教会担当司祭をはじめ信徒の皆様信仰とおもてなしの心がこの地域の人びとに幸いをもたらすように、感謝と心からの祈りを申し上げます。



楽しく体動かしたクリスマス会

宇和島市の愛和聖母幼稚園で12月10日(土)にクリスマス会が遊戯室にて開催されました。今年度から今度まで別々に開催していた遊戯会と音楽会を一つにして行うことにしました。

うれしい初聖体



ぼくは、11月6日にはつせい体をうけました。お兄ちゃん3年生のときにはつせい体をうけて、ぼくは2年生だけでできるかなあとすこししんぱいでした。



聖劇を捧げる園児たち

愛和聖母幼稚園は今年、創立88年を迎えました。創立当時宇和島市には幼稚園が二つしかなく、幼稚園に行けない多くの子どもがいたのを知った当時の主任司祭イシドロー・アタネス神父が教会敷地内に幼稚園を創設して幼児教育を通じてカトリック教会が地域社会に益することができると道を開くという目的で建てられました。

そこで来年のキリスト教一致祈禱週間のテーマは「和解」キリストの愛がわたしたちを駆り立てていませう。キリストを通して和解するように呼びかけています。もちろん、数百年に渡る問題は簡単に解決しません。しかし、イエスは福音で言われるように「求めなさい。そうすれば与えられる」(マタイ7:7)。

集いがない地域であれば、「キリスト教一致祈禱週間」の期間の日曜日あたりに、年1月22日に高松教区全体の教会で行われるエキュメニカルミサに参加して下さい。「エキュメニカルミサ」はキリスト教の諸教派が様々な違いを受け入れながら、互いに協力してイエス・キリストの福音を宣べ伝えるよう願って捧げられます。

ただでんスター寺田やいわさきしんぶさまにいろいろおしえてもらって、はつせい体をうけることができました。すこしきんちようしたけど、はじめてごせい体をいただいたときはうれしかったです。さらに光るメダイをしんぶさまに首にかけてもらってうれしかったです。お兄ちゃんみたいにじしゃが上手にできるようにになりたいです。

Advertisement for '聖ドミニコ宣教修道女会' (St. Dominic's Missionary Sisters) with a photo of a church service.

Advertisement for '暁の星学園' (Akatsuki no Hoshi Gakuen) with a photo of a child.

編集後記 年を経るにつれ、一年が加速度的に速くなるのは自分だけだろうか。勿論「神のいつくしみの特別聖年」も超スピードで行ってしまったような気がする。でも、そのへいつくしみを、ゆっくりと味わえるのはこれからの生き方にかかっているのだらう。教会の暦も新しくなり、世の暦も新しくなる。さて、己の心も新しくなつたか、じっくり問いながら新たな年を受け取ろう。(J)